

32 家康を支えた名城 高天神六砦の紹介

筆者 中脇 光翔

はじめに

掛川市の有名な城といえば掛川三城。掛川城、高天神城、横須賀城です。これらの城は全国的にも有名で、城郭の本にも大きく紹介されていることが多いです。しかし、地元の図書館などで歴史や史跡について調べていると、稀に珍しい城が見つかることがあります。それらにも深い歴史があったり、有名な武将が関わっていたりと非常に価値があります。

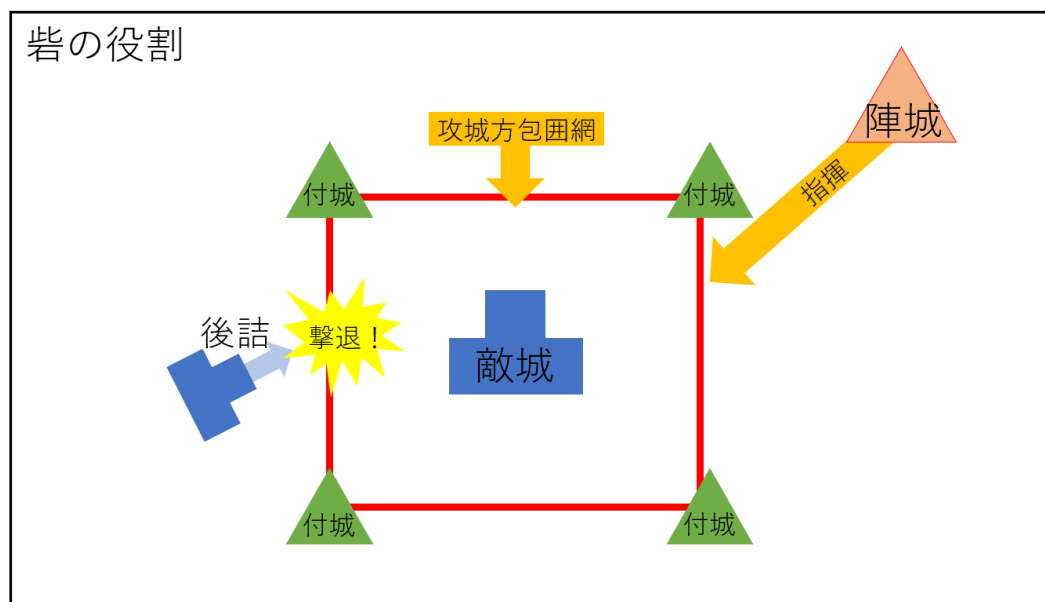
今回紹介する「高天神六砦」もそのひとつですが、残念なことに、その知名度は低く、訪れる観光客も少ない印象があります。私は、このような価値ある史跡をより広く知ってもらいたいと思い「高天神城六砦」の魅力を紹介します。

1. 砦とは「攻撃する城」

砦は城の仲間です。城と同じように、堀や土塁で構成されています。しかし、砦と城では明確な違いがあります。「攻め」か「守り」かということです。多くの城が守り重視なのに対し、砦は攻める兵を駐屯させる「攻める城」です。敵を包囲したり、重要なチョークポイントを抑えたりと使い道は様々です。

砦には2つの種類があります。「陣城」と「付城」です。

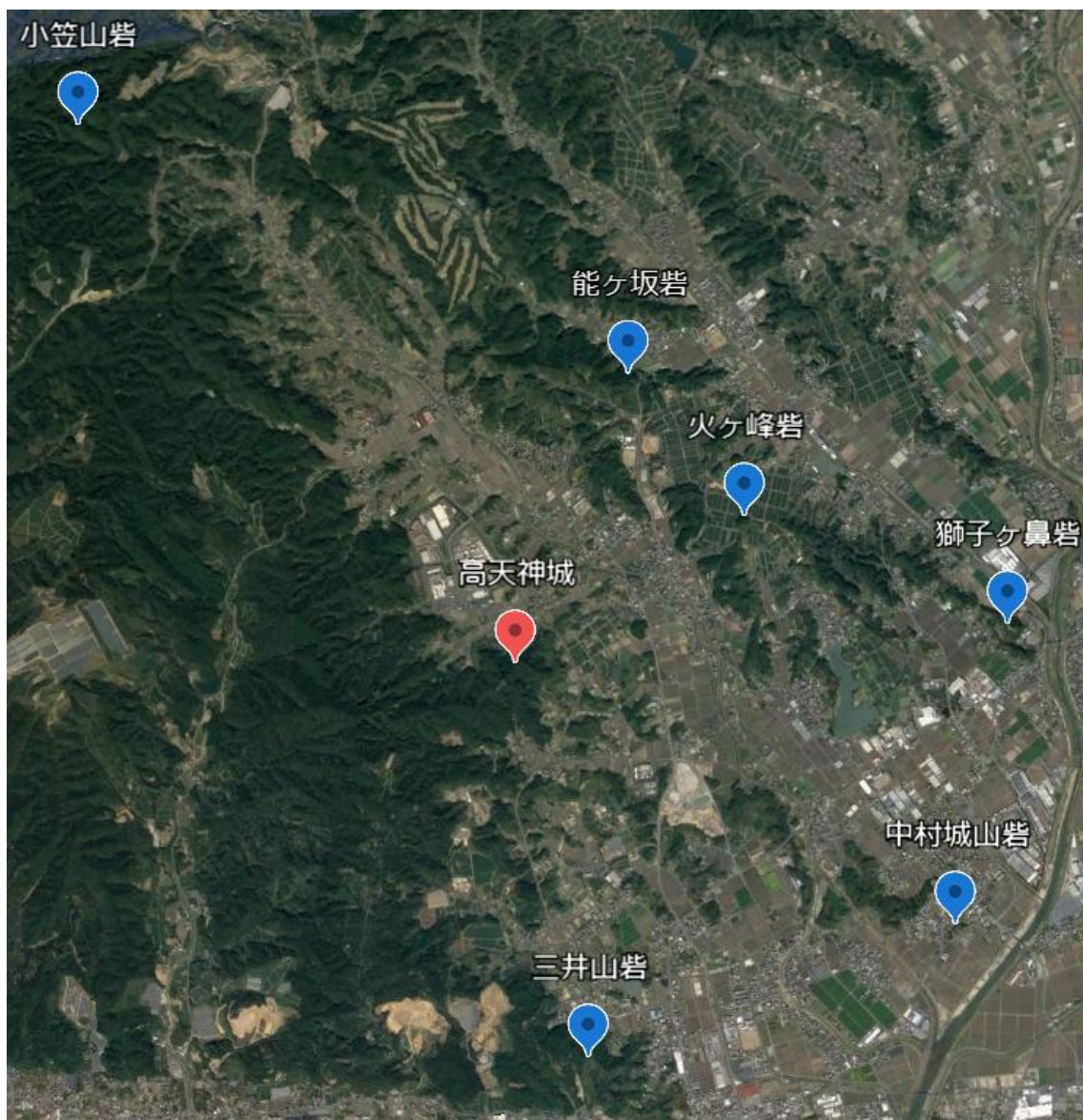
「陣城」とは、城攻めの際の攻撃拠点です。とてもシンプルな造りですが、合戦が長引いたり大規模になったりした場合は、より大きい陣城を急造しました。「付城」とは、敵を包囲するために、目標の周囲に複数築かれた砦です。



2. 高天神六砦の紹介

高天神六砦に含まれる 6 つの砦を紹介します。

砦	解説
小笠山砦 (掛川市入瀬山、 袋井市)	標高 260m もある小笠山に築されました。元々は掛川城を攻めるために造られましたが、高天神城攻めで再び使われました。小笠山の尾根を利用した細長い形をしています。本曲輪周辺には大きな横堀や堀切が巡らされているなど、砦にしてはとても大規模なものとなりました。もちろん、六砦の中でも最大の規模を誇ります。遺構の残存状況も良く、登山コースもあるのでアクセスも簡単です。
能ヶ坂砦 (掛川市小貫字能ヶ坂)	高天神城から掛川城や相良方面に続く街道の近くにあり、陸路を守備した砦です。現在の遺構の残存状況は良くありませんが、当時は 2 つの本曲輪と階段状の曲輪を備えた本格的な砦だったそうです。
火ヶ峰砦 (掛川市下土方)	高天神城から一番近い所に位置しており、丸い山のように見えます。砦の位置については諸説あります。現在は本曲輪のみが残っていて、砦の規模は良く分かっていません。能ヶ坂砦と共に陸路を守備しました。
獅子ヶ鼻砦 (掛川市市岩滑、 菊川市大石)	掛川市と菊川市の境に位置する砦です。標高 44m の丘陵に造られました。砦の東側には菊川が流れていて、兵糧の運搬に重要な場所を守備しました。本曲輪は広く造られ駐屯地として使われました。
中村城山砦 (掛川市中)	高天神城から東南へ 3 k m の高塚山に造られました。当時は菊川の入江に面していて、水運による港機能を持った重要な砦です。六砦の中で唯一発掘調査が行われていて、南側には深く広い堀が確認されています。階段や駐車場が整備されているので、比較的アクセスのしやすい砦となっています。
三井山砦 (掛川市大坂)	現在の大浜公園に位置するこの砦は、高天神城から南に約 3 k m の地点にあります。遺構の残存状況は良好で、堀切や土塁を見ることができます。丘陵地帯に 7 つの主曲輪があり、南方を守備しました。



(出典 GoogleEarth) 高天神城と高天神六砦

地図上で確認しても分かる通り、高天神城を包囲するように配置されています。小笠山砦は北方（掛川方面）、能ヶ坂砦と火ヶ峰砦は東方（相良方面）、獅子ヶ鼻砦と中村城山砦は南東（菊川方面）、三井山砦は南方（遠州灘方面）を抑えたと言われています。

こうして見てみると、高天神城の東側は完全に包囲されています。元々西側は小笠山があり、その向こうにある横須賀城や馬伏塚城、その他の砦と連携して高天神城の包囲を完成させました。

3. 高天神六砦が活躍した戦い

砦が活躍した戦いといえば「高天神城の戦い」です。

年表

年 代	出来事
永禄 11 年 (1568 年)	この頃、徳川家康が小笠山砦を築城する。
永禄 12 年 (1569 年)	高天神城主、小笠原長忠が家康に従属する。
天正 2 年 (1574 年)	武田勝頼により、高天神城落城。
天正 3 年 (1575 年)	武田勝頼、長篠の戦いで織田徳川連合軍に大敗。
天正 7 年 (1579 年)	徳川家康が小笠山砦を改修、三井山砦築城。
天正 8 年 (1580 年)	徳川家康が能ヶ坂砦、火ヶ峰砦、中村城山砦、獅子ヶ鼻砦を築城。
天正 9 年 (1581 年)	徳川家康が高天神城を奪還し、その後廃城。 同年、高天神六砦も廃城。

元々高天神城は、家康の家臣、小笠原長忠の城でした。しかし、天正 2 年（1572 年）に武田氏が攻めると、家康の援軍が間に合わず落城。武田氏の城となってしまいました。

これを取り戻すため、天正 3 年 5 月 21 日（1575 年 6 月 2 日）長篠の戦いの敗北により、武田氏の遠江における力が弱まると、徳川家康は高天神城の攻略を開始しました。しかし、高天神城は非常に守りが固く、力攻めをするのは困難でした。高天神城に籠っているのは、武田方の武将、岡部長教。数千人ほどで守りを固めていました。

家康は、現在の袋井市の馬伏塚城築城を足掛かりに、横須賀城、岡崎の城山、そして六砦で高天神城を包囲しました。ここで、六砦の存在が戦況を大きく左右します。六砦により陸路、海路などの補給路が遮断され、兵糧や援軍の移動ができなくなりました。家康は、「ある程度の兵士で取り囲みつつ、確実に城方の戦意を喪失させ、持久戦に持ち込む」という作戦を実行したのです。

家康の予想通り、高天神城の兵糧は底をつきます。岡部長教は甲斐（山梨県）に帰還するため、

城から打って出て正面突破を試みますが、六砦から出てきた徳川軍に阻まれ、最終的には討ち死にしてしまいます。家康は六砦を上手く使い、高天神城の戦いに勝利しました。

こうして高天神城奪還に成功した家康。役目を終えた六砦はその後廃城となりました。

4. 高天神六砦の現状

4-1. 現状

残念なことに、高天神六砦の遺構は、茶園整備などで失われてしまい見られないことが多いです。私も六砦を全て回ってみましたが、入れなかったり場所が分からなかったりと、あまり整備されていないのが現状です。



↑草木が生い茂る三井山砦



↑老朽化した看板 (2022年12月撮影)

上記は三井山砦の写真です。前方に大きな堀切を確認することができます。しかし、アクセスが難しく、細い道路から入らなければなりません。所々に一方通行の道路があり、とても危ないです。

獅子ヶ鼻砦は、公園などの整備によって遺構が失われてしまいました。残るのは階段状の曲輪や本曲輪のみです。火ヶ峰砦、能ヶ坂砦はとても悲しいことに遺構の残存状況が悪く、火ヶ峰砦に至っては場所にも諸説があるほどです。



↑火ヶ峰砦と思われる丘。



↑獅子ヶ鼻砦

(2022年12月撮影)

しかし、今でも遺構を見ることができる砦が2つあります。小笠山砦と中村城山砦です。

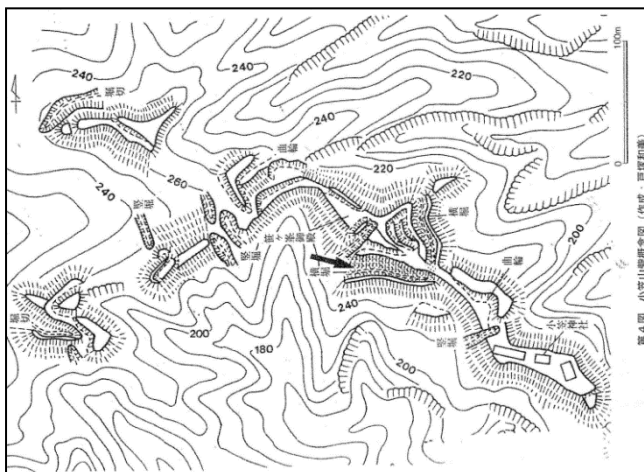
4-2. 小笠山砦

現在の小笠山山頂付近に位置するこの砦。蓋を開けてみればそこは遺構の宝庫。残存状況は良く、堀や土塁が残されています。

■規模

小笠山砦は、「東陣城」、「西陣城」に分けられています。砦といっても、その大きさはもはや城といえるでしょう。四方には曲輪が設けられていて、数百人ほどの兵を駐屯させることができました。

実際に行ってみると、一回りするだけでも50分はかかります。この規模の大きさも強力な包囲網の形成に一役買っていたといえるでしょう。



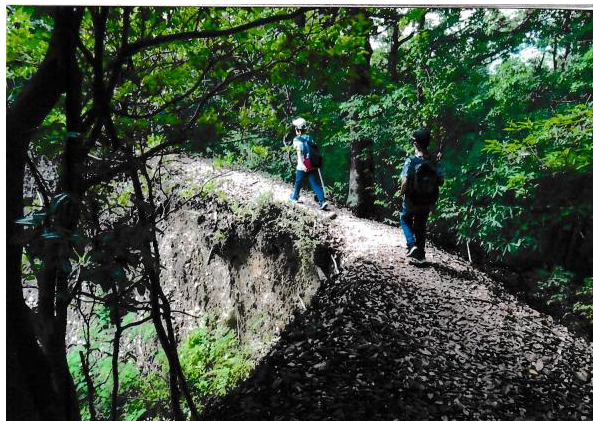
(出典 掛川城ー掛川城の戦いと高天神城攻めー)

■堀

本曲輪に近づくと、そこには大きな堀切があります。敵の行く手を阻むために、土塁は高く、堀は深く造られています。

■細い尾根

曲輪と曲輪の間には、尾根を利用した細長い道があります。実際行ってみるとよく分かりますが、とても細いです。幅が狭く一人ずつでしか通れないようになっていて、防御にも優れていることが分かります。



(2022年8月撮影)

小笠山砦はハイキングコースとして整備されていて、本曲輪である「笹ヶ峰御殿」という場所には、標柱や看板が立てられています。掛川三城には劣るものの、六砦の中では知名度が高いです。

4－3．中村城山砦

高天神城から東南へ3kmの高塚山に造られました。当時は菊川の入江に面していて、水運による港機能を持った重要な砦です。遺構の残存状況はとても良く、駐屯地、階段状の曲輪、本曲輪などを確認することができます。

■駐屯地

周辺には平たい土地が続いていて、砦内にはそれを利用した曲輪が設けられていました。駐屯地として使うことができ、たくさんの兵を駐屯させることができました。

砦の規模は小さいですが、コンパクトで守りやすくなっています。歴史的に見ても、大きすぎる城は守る兵が足りず、落城してしまうことが多いです。それに対して、コンパクトな方が少ない兵で十分守り切れるメリットがあります。



(出典 掛川城―掛川城の戦いと高天神城攻めー)

■水運

当時はこの砦を水堀が囲んでいました。発掘調査では、深い堀が確認されています。近くに菊川が流れているため、水運の拠点にもなりました。

■階段状の曲輪

砦を登ると階段状の曲輪を見つけることができます。ここに兵を忍ばせて、下から登ってくる敵を狙ったのでしょう。

実際に見てみると、縄張り図で想像するものよりもずっと大きいです。一つの段に5人は入ることができたでしょう。水運の最前線を見張るための一つの工夫と言えます。



(2022年12月撮影)

「中村砦城山保全会」や「中地区まちづくり協議会」が協力して、この砦を管理しているようです。地域の有志によって発掘調査も実施されました。そのため、駐車場や看板が整備されていて、地域の人々を守る避難場所としても活躍しています。

最後に

これまで高天神六砦について歴史や魅力を中心紹介してきました。調べてみればみるほど新たな発見があり、とても興味深い貴重な史跡です。

高天神城の戦いにおいて、この六砦がなければ、歴史が変わっていたかもしれません。徳川家康は、豊臣秀吉、織田信長などの武将と違い城攻めが苦手でした。実際、掛川城の戦いでも苦戦し、武田信玄に「早く落とせ」と急かされるほどでした。また、田中城攻め（藤枝市）では、攻め落とすのに8年もかかったという説もあります。そう考えると、この六砦の存在は、徳川家康の「どうする」を救ったとも言えるでしょう。2023年のNHK大河ドラマは徳川家康が主役です。高天神六砦を全国の皆さんに知っていただくチャンスです。私は、この魅力ある史跡を、掛川三城のように広く知られることを望みます。

参考文献

■掛川城－掛川城の戦いと高天神城攻め－

於：掛川市立図書館 加藤理文（織豊期城郭研究会）

■「中世城郭研究」第23号（2009）抜き刷

高天神攻城戦と城郭－天正期徳川氏の付城を中心に－
土屋比都司 著

■袋井市教育委員会・掛川市教育委員会共催特別展

馬伏塚城と高天神城展
袋井市歴史文化館 編集

■東海の名城を歩く 静岡編

中井 均・加藤理文 編集